

OG訪問

香り立つコーヒーと、感性が光るラテアート。石狩平野を見渡す眺めのよいカフェが本学臨床福祉学科卒業生・山下さんの仕事場の一つです。もう一つの仕事場はレストラン。クリエイティブで多様な「福祉の仕事」の一面を見せていただきました。

社会福祉法人ゆうゆう 当別事業部就労支援課長
山下 あゆみさん（看護福祉学部臨床福祉学科2006年3月卒業）



ミッション1: カフェオープン

本学中央講義棟10階ビューラウンジにある「渋谷ダブルツールカフェ北海道医療大学店」は、本学と、本学卒業生が設立した「社会福祉法人ゆうゆう」、そして「ダブルツール」、3者のつながりから誕生した、知的障がい者の就労施設です。2014年4月のオープンから2年、この画期的なカフェの責任者を務めてきたのが山下さん。出店が決まり、立ち上げの責任者に就いたのは、オープンのおよそ2カ月前。すぐに渋谷の本店で1週間の修業に入り、カフェの業務、運営を一通り詰め込んできました。そして短期間、激務で準備をととのえ、知的障がいのある3人のスタッフとともに、4月オープン。以来、元気なあいさつと本格コーヒーで、毎日たくさんの学生、教職員を迎えています。

ミッション2: レストランメニュー刷新

カフェが軌道に乗った2015年4月、山下さんは「べこべこのはたけ」の責任者も兼務す

ることになりました。「べこべこのはたけ」は「ゆうゆう」が障がい者の就労支援と地域交流の場づくりをめざし当別町太美で運営するレストラン。農園を併設し地産地消を掲げています。ここで山下さんに課せられたのは東京・銀座の人気店「銀座ライス」の協力の下でのメニュー全面リニューアル。2週間店を閉め、職員と知的障がいのあるスタッフが一丸となって新メニューの調理、配膳の訓練を重ね、再オープンを果たした7月以降、客足を大きく伸ばしました。

とんかつ 福祉の仕事

「レストランに来てくれた中学時代の友人が『とんかつ揚げてレジ打つのも福祉の仕事なんだ』って」と山下さんが笑うように、その仕事内容は一見「福祉の仕事」のイメージとは異なるかもしれません。でも、山下さんが立っているのはまぎれもなく福祉の最前線。一緒に働く障がいのあるスタッフは就労支援施設の利用者さんですから、その心身の健康状態の把握、日常的フォローなどはもちろん仕事の基本です。「働くことを楽し



勝手に「季節を感じて同好会(略してキセカン)」と名前をつけて道内をくまなく回った大学時代。「遊んでばかり」の仲間は、全員がしっかり福祉の専門職に就きました。

いと感じ、共に働く仲間がいる職場が自分の居場所と思える、健常者には当たり前にある場をつくりたい」と山下さん。「障がいがあっても失敗や挫折を経験として生かせる選択肢のある社会」づくりをめざす福祉のプロです。

続けるために 外に出よう

山下さんは本学卒業後ずっと「福祉の仕事」、主に知的障がい者の就労支援現場で活躍してきました。でも、福祉から離れようとした時期もあったそうです。「疲れたんですね。他の世界を知らないから、どんどん視野も狭くなって」。そんなとき、本学卒業生で「ゆうゆう」の理事長である大原裕介さんから声がかかり、北海道の若手福祉従事者定着支援事業に携わることに。現場を離れ、福祉従事者が集い、支え合い、育て合うネットワークづくりに4年間奔走しました。「本当に多くの人に会い、世界が一気に広がりました。福祉を外から眺めることもできました。そして、心底現場が好き、戻りたいと思ったんです」。

もう迷いはありません。多様性を認め、誰もが居心地よく暮らせる「ごちゃまぜの地域」づくりへ、山下さんは「片手に自信、片手に謙虚さ」を携え進んでいます。



本学「ダブルツール」のオペレーションをアレンジして働きやすい環境を実現。利用者さんはラテアートに腕を振ります。山下さん不在時は本学の後輩「ゆうゆう」職員・小松麻由莉さん(2013年卒)が担当します(写真奥)。



「べこべこのはたけ」でスタッフのお誕生会の1枚。ここで自信を得て、一般企業への就職に挑戦する利用者さんも出てきたそう。